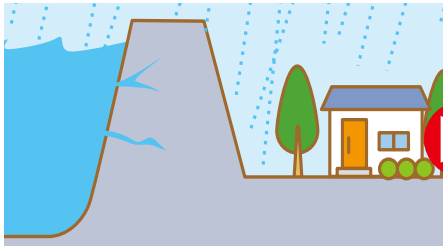


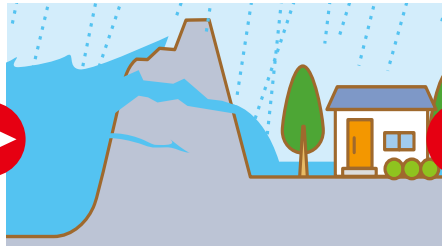
水害シナリオ

洪水発生仕組み

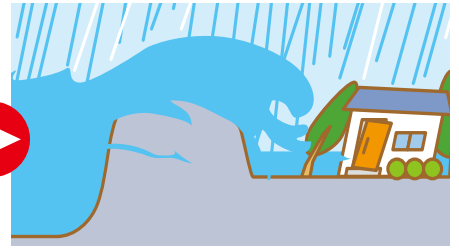
洪水は、大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を超えるなどして起こります。



大雨などにより川の水が堤防いっぱいまで増えると、堤防に水の圧力がかかり始めます。




水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。




堤防の崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく水が流れ出し、家に襲いかかります。

シミュレーション設定条件、降雨規模

想定最大規模・計画規模の降雨となった場合、設定河川以外の小河川も同時に氾濫するおそれがあります。市からの避難情報や気象情報に注意して適切な避難行動を取ってください。

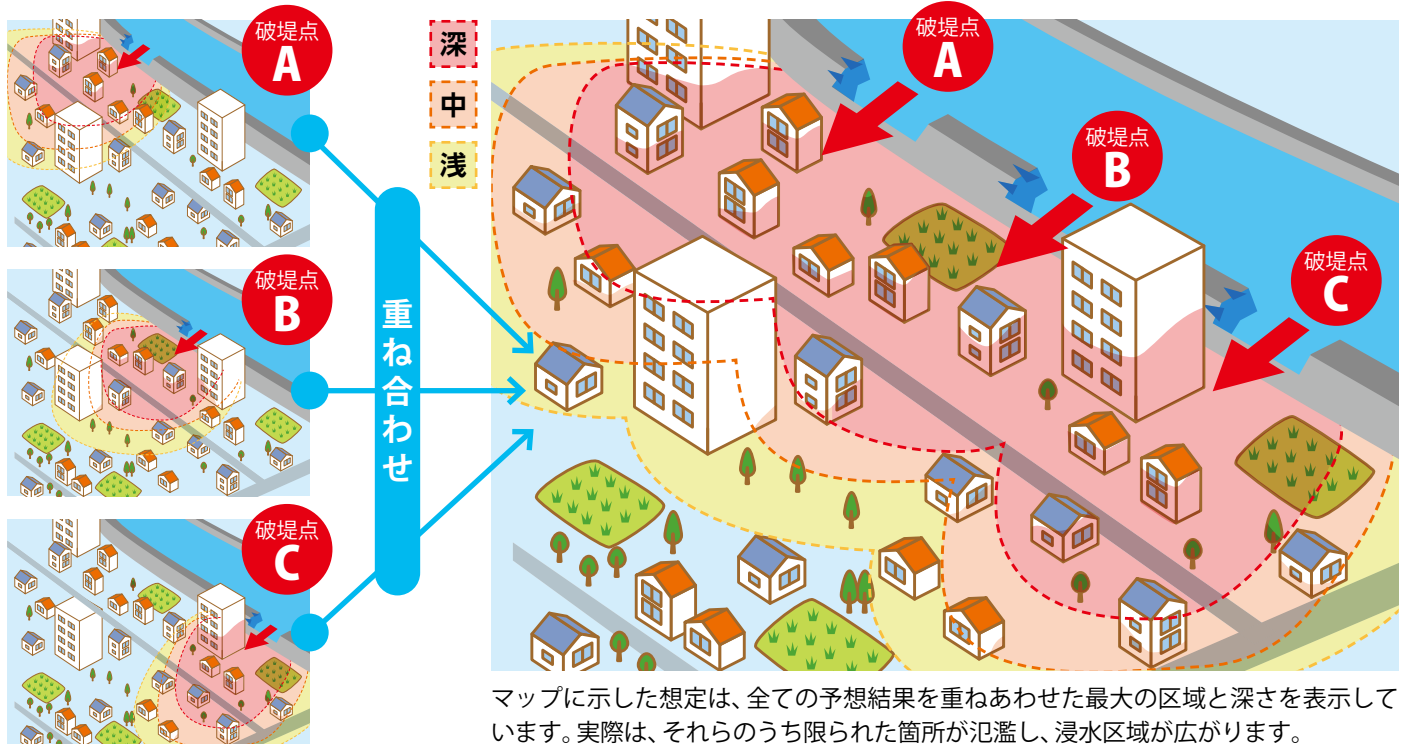
 想定最大規模
(およそ1,000年に1度)

 計画規模
(およそ70~150年に1度)

南区	信濃川(信濃川水系)	48時間633mm
	中ノ口川(信濃川水系)	48時間633mm
	鷲ノ木大通川・西大通川(信濃川水系)	48時間271mm
	新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路(新川水系)	36時間260mm
	木山川(新川水系)	36時間260mm

洪水浸水想定区域の考え方

全ての破堤点(堤防が決壊すると想定した箇所)について、どう氾濫し、浸水するか、それぞれの箇所で氾濫解析シミュレーションを行い予想しています。



河川区域とは…

一般に堤防の川裏から、対岸の堤防の川裏までの間の河川としての役割をもつ土地を河川区域と呼びます。河川区域は洪水など災害の発生を防止するために必要な区域であり、河川法が適用される区域です。河川別・中学校区版マップに記載しています。

